

水トラストニュース

2007.11 No.18



もくじ

8・5 「水源の森へいらっしゃい！」 - 素人のための木こり仕事入門 - 1
11.3 御嵩町いきいき健康まつり環境フェア 4
水源の森の活動と助成金について 5
11月の山仕事日記から 7
会員からのメッセージ 11

8・5 「水源の森へいらっしゃい！」

- 素人のための木こり仕事入門 -

国土緑化基金の助成金を受けて、名古屋駅からの無料バスツアーを実施した。集合地点は新幹線口、ビックカメラ前の歩道。初めての試みなのでバスがいっぱいになるものかどうか少々心配だったが、名工大生と金城学院大生など若者が 7 人、子連れのファミリーなどの参加もあって、28 人乗りのバスがほぼいっぱいになった。予定通りに 9 時出発。

車中では、水源の森が始まった経緯を説明した後、安藤さんが用意してきたクイズで盛り上がる。割り箸 1 膳でティッシュペーパーが何枚出来るかという問題では、天秤まで用意されていて、正解が実測された。木の葉から樹種を当てる問題もあった。

高速道路を乗り継いで走ったので、予定通りに 1 時間で水源の森の入り口に到着。作業小屋の前には、すでに先発していた木亦さん、中村さん達が準備万端整えて待っていてくれた。木亦さんから注意事項の説明を受けた後、ヘルメットをかぶってもらって、選木班、間伐班、枝打ち班に分かれて現場に入った。怪我をしないように、安全第一で無理せずに作業を進める。樹高 20m 近いヒノキが伐り倒されて、どお〜んと地響きを立てると歓声が上がった。

昼食は、犬山の人たちの手料理が並んで、女子学生達からまたまた歓声。おやき、そば巻き、煮豆などを口に運ぶたびに「これヤバイよ」を連発する学生もいた。どうやら「おいしすぎてヤバイ」ということらしい。ハンバーガー世代でも本物の味が通用することにこちらが驚いてしまった。



午後は仕事を入れ替えて 3 時まで山仕事を継続。その後、マイクロバスで小和沢へ。道が狭いので、マイクロバスの運転手が悲鳴を上げていたが、こすることもなくなんとか無事に通れた。丸山ダム直下の橋から産廃処分場が計画された谷の全景を見てもらった。

帰路は八百津を通ることも考えたが、往路をそのまま逆にたどり土岐インターから中央道を経て、夕暮れ時の名古屋駅に 6 時半到着して解散。長い一日が終わった。やっぱり若い人が多いと全体に活気が出て、こちらまで元気になる。来年もやろう。今度は 45 人乗りかな？いやいや、それでは小和沢に行けないので、28 人乗りを 2 台かな…

このツアーに参加してくれた金城学院大生の加藤さんから素敵な感想文が送られてきた。事務局メンバーに読んでもらったら、それだけではもったいないということになり、加藤さんの了解を得て、今号に掲載した。(大沼淳一)

水源の森での「素人のための木こり仕事入門」感想文

加藤紗織（金城学院大学3年）

私は、祖父が営林署で働いていた話を去年の夏休みに聞きました。きっかけは、ある講義の宿題でした。木、山について詳しい祖父ですが、祖父と一緒に自分の家の山に入ったのは数回しかありません。一緒にのこぎりを使って何かしたことはなく、危ないからと言われ、ただ後ろをついて歩いた経験しかありません。なので、今日一日、山を管理するということについて見学したり、話を聞いたり、体験する中でいろいろ考えました。そして、実際に体験できてすごく楽しかったです。

山を作るとき、ただ木を植えれば良いというものではなく、その後も手入れを続ける手間が必要ということを知りました。木を育て、山を育てる時、がむしゃらに木を切り日が当たるようにすれば良いというものではなく、木の直径を計り残す木の本数を決め、どの木を残すか考える。曲がっていたり、細かったり、蔓が巻きついていたり...簡単そうと思っていましたが、上を見上げて木を見たとき難しいと感じました。一本の命を残すとき、選ばれなかった木はどんなに一生懸命光を求めて生きていても切られてしまう。全部の木が生きられるわけではない。今回残った木も次に選別した時、選ばれないかもしれない。自然は残酷だと思いました。

梯子に登るまでは木を下から見て、何となく高いなぁ...と思うだけでした。枝打ちは実際にやりませんが、梯子に登って思ったことは、たった8Mの梯子を低いと感じました。一番上まで梯子に登っても10M。でも、その10Mの高さの枝打ちが大切で、手間のかかる作業である。手間の大変さを体験したいと思うので、9月(行けるかな?)に一日だけでも、もう一度、御嵩の山に行きたい。そして、枝打ちを実際にやってみたいと思いました。

産業廃棄物処分場予定地をバスの中から見て、ゴミって何だろうと思いました。私たちが



生活するとき、ゴミが出ます。最近ではもったいないと考える事はほとんどありません。以前、日傘の柄を直しました。修理屋さんで新しい柄を探すのは難しいので、新しい傘を買ったほうが安いですよと言われてましたが、どうしても直して欲しいとお願いし、直してもらいました。修理が終わり受け取りに行ったとき、雨傘の骨が折れたということで長年愛

用している傘を修理に持って来たおばあさんと会いました。私が日傘の柄を直した事を知ったおばあさんは、どんなに修理代が高くても、一つの物を大切に使うことは大切ということを教えてくださいました。日本で一番物作りが盛んな愛知県。作られたものを消費してどんどん捨てる国民。モノに不自由しない暮らしの中で、人間の心は弱っているのではと思いました。



欲を満たすために新しいものを求めていると思います。そして、古くなるとすぐ捨てる。予定地に建っていた家を見て、買い物に行くのに時間がかかるし、町から離れていて大変な生活かもしれませんが、今、誰も住んでいない立派な家で以前生活していた人の心は満たされていたのではと思いました。

今回の体験を実家に帰った時に祖父に話したいと思います。そして、また祖父からいろいろと話が聞けたらと思います。普段の生活の中で、木と山の役割とありがたさを考える事はほとんどありません。実家のすぐそばに山があるのに何も知りません。今回、行きのバスの中で杉とヒノキの葉を見て、多分こっちがヒノキ？（正解しましたが）と葉を見て区別ができるだけで、自分が何も知らないということに気がつきました。毎月参加することは無理ですが、半年に一度でも良いから参加しているいろいろ学びたいです。（ただ単に、すごく楽しかったからという理由もありますが）

気軽に、楽しく山仕事に参加しませんか

とき： 毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

集合場所： 御嵩町・中公民館（名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ）

集合時間： 午前10時（日曜日日帰りの方も同じ時間に中公民館にお越し下さい）

参加の方法： 電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

申し込み・お問い合わせ先： TEL 0574-64-0216(中村) FAX 052-779-4291 (大沼)

Email : mitake500np@yahoo.co.jp

参加者の服装・持ち物： 長袖、長ズボン、作業の出来る履き物、弁当、水筒

（宿泊出来る方は： 寝袋、洗面セット、食器、ハシ）

宿泊先： ふれあいセンター（御嵩町上之郷字綱木）、日帰り参加も歓迎です

11.3 御嵩町いきいき健康まつり環境フェア

みたけの環境フェアでびゅうしました

僕は檜三郎、御嵩町町有林に植えられて40年以上になるんだ。東濃ヒノキってということなんだろうけど、長い間ほっとかれた。ところが今年、名古屋やら遠方から人がやって来ては間伐してくれて、まちから払い下げられた僕たちはプランター、腰掛け、プレートなどに加工され、環境フェア2007のフリーマーケットにでびゅうしたってわけ。

テントの前に並べられたとたん、他のブースの人たちの熱い視線が集まって、ヤッターとちょっと鼻が高かった。プランター君なんかすぐ売約済みになるし、焼き色をつけられて GANGLO にしてもらった丸田君は、お客様のご要望に答えて加工され、めでたくひきとられていった。プレートたちもどんぐりや小枝で可愛らしくアレンジされて華やかに。

こんな板が欲しいという要望もあったり、町内産ヒノキのでびゅうはまず成功かな？いろいろな場面でこれにご協力くださいました皆様にお礼を申し上げます。(小西 和子)

檜君へ

私は桜の“小枝カナ”です。私も拾われて、11月3日の環境フェアへ行きました。

環境フェアは楽しかったね。本当、山にいたら誰も見向きもしないのに、御嵩の会場へ行ったら、檜君はどうどうとして、肌がきれいで、香りもよく人気者だった。街へくれば人は関心をもってくれる、木にさわりたいと思っているってわかった。だったら今度山にも来てくれたらいいね。

私は檜君と違って、細くて小さいです。でもジャケットの皮は色も肌触りも気に入っています。細くて小さいので工作に使われ、小さく切られ、ボンドで別の山の仲間とベタベタくっつけられ飾りになりました。檜君の前では見栄えがしなかったけど、名古屋の家ではちょうど良い大きさで、毎朝声をかけてもらっています。なんだかいつもなら外にいて、人には見えてもらえないのに、人の手の中や、家の中にいると人も私たちもお互い幸せな気分です。

また来年も新しい仲間が出れるように、いろいろな人が楽しいと思って間伐してくれるのでしよう。うれしいです。(市村 加奈子)



水源の森の活動と助成金について

企業のCSR（社会貢献）活動が盛んになっている。これに伴って、市民活動に対する各種助成金が増加している。これに従来からの各種財団などによる助成金を合わせれば、大変な数にのぼる。特殊な例だが、愛知万博の余剰金（本当は余剰金などといえたものではないが・・・）をモリコロ基金と名づけて、先ごろ募集が始まった助成金などもある。

我々、木曽川水トラスの活動資金の主軸は会員の皆さんから送られてくるカンパや会費である。水源の森を購入した時の500余万円も、木曽川下流域市民の御嵩町民への恩返し資金として集められた浄財であった。この森を購入したことと関連して、不動産である森の所有者を決めざるをえないことになってNPO法人格を取得することになったのである。

NPO法人格を取得したために、セブンイレブン緑の基金から助成金申請をしてはどうかとのご案内があって、30万円の助成金をいただいた。これが本トラスとして初めての助成金であった。お陰で、1台目のチェーンソーやナタ、ノコギリ、発電機などの道具を購入することが出来た。30万円は大金とはいえないが、我々程度の規模の市民活動ではなかなかの大金で、使い度がある。以後、毎年1~2件の助成金をいただくようになった。中部リコーの助成金は、20万円であったが、社員の皆さんが2度にわたって山仕事に参加してくれて、お互いに良い経験をした。日本財団や連合からも助成金をいただいたことがある。モータボートのてら銭かと思うとひっかるものがあったが、いただいてしまった。

昨年は、国土緑化推進機構による緑の募金助成金を申請して、100万円をいただいた。緑の羽根募金が元手になっているらしい。町有林整備事業を始めるにあたって、チェーンソーなど金額の張る装備をまとめて購入するために、御嵩町役場のアドヴァイスもあって応募したものである。半信半疑だったが、採用されてしまった。これまでの20~30万円とは桁が違うだけに使い度がある。我々の装備もかなり充実して、本格的なセミプロ用のチェーンソーなどが揃ってきたし、無料バスによる体験講座も開催することが出来た。本年も継続申請したところ、90万円の決定通知をいただいた。事業年度は本年9月から来年8月までである。ユニークな助成金制度を展開する



中部リコーの助成金選考会に呼ばれたことがあった。過去の助成金交付団体の中から目立ったところを呼ぶということであった。これに参加して驚いたのは、応募団体が多くて競争率が結構高く（たしか5倍ほどだった）、立派なプロジェクトでも落選してしまうことであった。助成金の数は増えているが、市民活動団体の数もそれに増して増えているということである。我々が選ばれたのは幸運だったとその時は思ったのであるが、今では少し違う見解を持っている。

これまで応募した助成金申請で落選したことがない、確率100%で助成金をいただけきたのは、我々の活動目的の志の高さと、御嵩町民による産廃処分場立地に関する住民投票に至るまでの重い事実にあるのではないだろうか。町内を木曽川が流れているにもかかわらず、水利権の不条理から遠く飛騨川の高価な水を引いて飲んでいる御嵩町民が、下流域500万市民の安全を危惧して処分場拒否の決定を圧倒的大差で行ってくれたことが全ての始まりとなっている。このことから我々下流域市民が上流域を見やる「まなざし」を獲得し、過疎や林業不振、若者を都市に奪われて限界集落化している現実を直視し、下流域から上流域へのなんらかの援助の流れを創ること、流域内循環、自給を目指すこと、などを掲げて活動を開始したわけであるが、この志が助成金審査の決定打になっているように思われるのである。しかし、我々木曽川水トラストは果たして高い志にふさわしい活動の実績をあげてきたであろうか。今一度、これを真摯に問い直し、初めの資金をカンパして下さった多数の下流域市民、毎年カンパを送ってくださる会員の皆さん、助成金を下さる諸団体の期待にたがわない活動を展開していく必要がある。また、このニュースを読んでいただく多くの皆さんには、この活動への注文、要望などをお寄せくださったり、実際の活動への積極的な参加をお願いしたい。参加していただければ、堅苦しい志とは別に、おいしいものが食べられたり、気持ちのいい汗を流したりといった副産物もある。是非ご一考ください。

高額な助成金をいただくということは大変なことでもある。それを使い切るためには相当な仕事をしなければならないからである。分相応に小額のささやかな助成金でやりくりしていったほうが気が楽だとも思うこともある。また、思い切り高額な助成金をいただいて、専従の職員をかかえるようになれば、飛躍的に活動の質と量が向上するようにも思われるが、そうすると毎年必ず助成金をとらなければならないとなり、志を曲げても助成金をもらわなければならないような事態になってしまう危惧もある。やはり、市民活動の原則は、志に共鳴する会員によるカンパと会費によって進められるべきである。

我が木曽川水トラストが得ている助成金の現状を報告するために長々と文章を連ねてきた。結論があるわけではない。とりあえず助成金で装備が買えて活動の幅が広がってはいるが、助成金に寄りかかったトラスト運動であってはならない。助成金がいつ途切れてもがたつかない運動として、会員の皆さんとともに頑張っていきたい。高い志の幾分かでも実現するために。皆さんよろしく申し上げます。（大沼淳一）

11月の山仕事日記から

天気予報は土日ともに雨。やれやれ今年についてはいいな〜(たしかに、週末になるとよく雨が降った!)と思いながら出発。砂田橋で安藤さん、庄さん、名工大大学院生の吉田クンをピックアップ。集合場所の中公民館に着くと、いきなり小栗久美子さんから大福餅の差し入れ。サツマイモを混ぜてついたというほんのりと黄色く染まった餅はふんわか柔らかくておいしい。これでお天気運も変わるかもしれない。

まずは水源の森へ。小屋の前の広場から周回路に向かうあたりでクリタケ発見。今晚はキノコ汁だ!まずは囲炉裏に火をおこしながら打ち合わせをし、チェーンソーに燃料や潤滑油(チェーンソー用の切削油)を補給。大きな松の丸太に火がついた頃に出発。間伐組2班と枝打ち組2班に分かれて現場に入った。小生は、このところ一人作業による間伐を試みているので、チェーンソーと木回し(フェーリングレバー)を入れた大型バッグと30mロープを肩にかけ、腰に滑車、カラビナ、シュリングをぶら下げ、尻のポケットにハンマー、クサビを突っ込んで出発。

間伐が手遅れになって混みすぎている森では、間伐材がまともに倒れてくれることは少ない。必ずと言っていいほど隣の木に引っかかってしまう。これを懸かり木という。本日の一本目、胸高径(きょうこうけい:胸の高さで測定した木の直径:日本では山側に立って地面から1.2mの高さで測定する)16センチ、樹高18mほどのヒノキ。隣の木同士の狭い隙間にぴったりと倒したかったがやっぱり「懸かり木」となった。左の木の右側の枝に引っかかっているため、左側から弦(ツル)を3分の2ほど切った。(ツル:木を切るときは、初めに倒したい方向に向けてV形の受け口を切り、次いで反対側から追い口を入れていく。完全に切りきってしまうと、どこへ倒れるかわからないので1~3センチほど切り残す。どこでチェーンソーを止めるかは、小生の場合は受け口に挟んだ小枝との距離で判断し、木がピクリと動き出したと同時にチェーンソーを引いてエンジンを停止する。伐り残した板状の部分が蝶番のようにゆっくりと折れながら倒れる方向をコントロールしてくれる。これを弦という。)次いで、フェーリングレバーの爪を間伐木の根元近くにハンマーで打ち込んでレバーを右側にねじってやると、簡単に懸かりが外れてどお〜と倒れた。残った弦が回転軸になって、引っかかった枝の上を間伐木が転がり落ちる原理である。簡単な道具だが実に優れたものだ。

続いて2本目。1本目が倒れてくれたおかげであいたスペースに狙い通りにうまく倒れてくれた。2本もすかすと、暗い林内



に青空の窓が開く。3 本目も同様にうまくいった。4 本目はまたしても懸かり木。今度はフェーリングレバーでもダメ。ついに弦がねじ切れて間伐木の下端が地面に落ちてしまった。こうなると一人の力では木を回すことが出来ない。やむなく、傾いた間伐木を根元から 2mほどのところで切断することにした。やりたくない神経を使う作業である。チェンソーを肩よりも高いところに構えて操作するので怖い。だいたい、チェンソーそのものが重いのでしんどい。それに、チェンソーを上からあてて切り進むだけでは木がV字形に折れ曲がってきてチェンソーが挟まれてしまう。3分の1ほど切ったところでチェンソーを引く。もう一度角度を変えて上側から切り込み、V字形の切込みをつくったところで、今度は下側から切り上げてやる。チェンソーの上歯はキックバック(チェンソーの歯が木に跳ね返されてチェンソーそのものが伐倒者に向かって飛んでくる現象)の危険性が高いので要注意だ。上手な人は、このまま切り上げていって、木が切り離されて上側は懸かった木の方向へ走り、下側が地面に倒れる直前にチェンソーを引く。小生は怖いので、1センチほど切り残したところで一旦チェンソーを引き、上側からV字形の谷間にチビリチビリとチェンソーをあててやる。木がピリッピリッと音を立て、やがて耐えきれずに二つに離れる。事はこれで終わらない。同じ操作を3回もやって、つまり、根元から6mほども切り刻んでようやく残った上側がなんとかかなりそうな状態となった。しかし、まだ仕事は終わっていない。間伐木は懸かった木の近くに垂直に近い角度で寄りかかっている。これにロープをかけて、手前の木にシュリングで固定した滑車にそのロープを通して引っ張った。ロープを肩にかけ、腕にひと巻きして全身をかけて引く。単に引くだけではダメで、固有振動数にあわせて引くと、木が共振して揺れ幅が大きくなってきてやがてドスンと倒れてくれた。汗がどっと噴き出してくる。ここで村のサイレンがなった。お昼である。

午後は4時ごろまで同じような作業をした。やっぱり懸かり木に悩まされて、結局一日合計で8本伐ったところで時間切れ。しかし、考えてみれば天気予報はハズレ、一滴も雨は降らなかった。やっぱりついているらしい。

町有林作業のために間伐用のラダーなどをトラックに積み込み、綱木の「ふれあいセンター」に移動した。さっそく囲炉裏に炭火をおこす。今夜の主食はカレーライス。そこへ、知多半島から岩城美智子さんとケンちゃんが炊き込みご飯と野菜を持って登場。用事があって泊まれないという木亦さんが、木曾川で釣ったアユを10匹ほど置いて帰っていった。それを竹串にさして囲炉裏に立てかける。火の上には金網を置いて、小栗久美子さん差し入れの餅を焼く。今夜もご馳走だぁ！東京から参加の伏屋さん持参の魚沼の地酒(コシヒカリで造った)、10年もので暗褐色になった梅酒などをなめながら話が弾む。庄さんが持ってきた熊の大和煮缶の味見もした。鯨に似ているのは調理方法のせいだろうか。

アユがいい色になってきた頃、御嵩町の山委員(囑託で町有林の管理をしている)の一人、吉田さんがやってきた。なんと、吉田さんのお土産もアユ。こちらは郡上で釣った長良川のアユだそうである。今夜は木曾川と長良川のアユの味比べが出来そうである。(小生は長良川に軍配を上げたが、判定結果は人によって分かれた。)次いで、御嵩町議の植松さんが1升ビンを持って登場。綱



木地区の自治会長さんでもあり、数十町歩の山主さんでもある。この頃ちょうど酒豪の清水雅子さんが到着。さらに、今採ったばかりのシイタケとハチノコ(この辺ではヘボという)を持って御嵩町の里山担当係長の可児さんが登場。この人はヘボ採りの名人で、はるばる和良村(現郡上市)まで出かけて採ってきたそうである。シイタケ栽培農家としても大規模にやっているらしい。まずはシイタケを焼いて、可児さん持参のショウガだまりでいただく。いい香りが口から鼻に抜

ける。ついで塩コショウ、マヨネーズをカサの裏にのせて焼いたものもいける。シイタケ栽培農家ならではの食べ方である。

6時前から始まった宴会が10時過ぎまで続いた。シャワーを浴びて一杯飲まない寝れないという早川彰子さんが土岐へ、岩城さんたちが明日野球の試合があるという吉田クンを乗せて名古屋方面へ帰っていった。囲炉裏周りをざっと片付けて、歯を磨いて各自思い思いの場所を占めて寝袋を広げた。安藤さん、小西さんは泊まりがはじめてである。

翌朝、夜半から降り出した雨がまだ残っている。朝食を食べた後、チェンソーの目立てなどをして雨の上がるのを待つ。そうこうするうちに、早川彰子さんが御嵩駅に着いた市村さんと王クンを乗せて到着。王クンは中国・内モンゴル自治区からの留学生で名工大の大学院生だ。9月に次いで2回目の参加である。

10時過ぎ、ようやく雨が上がりかけたところで、どうしても用事があるという庄さんが重いザックを背負って徒歩で下山していった。御嵩駅まで6キロほどの道のりである。一度歩いてみたかったという庄さんの弁に納得して、車で送るのをやめた。(後日聞いてみたら、「駅までちょうど1時間でした。登りだったらもう少しかかるでしょう。」とのことだった。)

今日は町有林での山仕事だ。ラダーをかついて歩いて町有林へ向かう。間伐班2組、枝打ち班2組を編成して森に入った。小生は安藤さんとの二人組で間伐だ。町有林と民有林との境界である尾根筋に近いところで曲がったヒノキ(胸高径14センチ)を伐ることにしたが、いきなり懸かり木。弦を切ってフェーリングレバーでクリア。その後も懸かり木が続いて、午前中は5本でサイレン。綱木センターに戻って昼食。夜勤明けの中村さんが顔を出してくれる。小栗久美子さんが差し入れを持ってきてくれて、またしても大ご馳走。ササゲとニンジンの炊き込みご飯、芋煮(サトイモと野菜の汁物)、黒豆の枝豆、キュウリの塩もみ、サラダ、そして大福餅。食べ過ぎると午後の仕事に差し支えるなぁと思いながら、たくさん食べてしまった。

午後も同じメンバーで作業開始。胸高径20センチの杉を伐りかけて、いきなりチェンソーを挟ま

れてしまった。長いことやっているのにちっとも進歩がない！ 要するに木の重心を読み違えたのである。南斜面なので、枝が南側にたくさんついている。それを南側に倒したかったのであるが、あいにくと木は山側に傾いて生えていた。枝葉の重量が木の傾きを補正するほどには重くなかったのである。山側から追い口を入れていって、見事にチェーンソーが挟み込まれてしまった。挟まれる直前に気がつくべきだった。不覚！ クサビを打ち込もうとしたが手遅れで入っていかない。谷側の木に滑車をつけてロープで引いたが重過ぎて動かない。大声で応援を呼ぶと、市村さんが上がってきてくれた。しかし、3人で引いてもダメ。チェーンソーだけは、市村さんと二人でロープを引いているうちにわずかな隙間が出来、その隙に安藤さんが抜き出してくれた。しかし、谷川に木を倒すことは難しいことがわかった。仕方なく山側に倒すことにして、改めて山側に受け口を切り、谷側から追い口を切るとどっと倒れた。しかし案の定、尾根筋の広葉樹に引っかかった。かくなるうへは、またしても細切れ大作戦だ。結局4回切り刻んで、残りにロープをかけてなんとか谷側に引き倒した。

この杉の年輪を数えた安藤さんから驚きの声。150年だというのである。もちろん天然杉であろう。たった20センチの太さになるのに150年もかかっているとは、どんな悪条件の下で育ったのだろうか。平均すれば10年で15ミリということになる。育ちの良い木ならヒノキでも1年で5ミリは育つ、まして杉ならもっと早い。年輪を正確に数えるために、切り株を薄い輪切りにして安藤さんが持ち帰ることになった。

この町有林の尾根筋は谷筋とは違った様相を呈している。谷筋は約50年前の植林によるものであるが、尾根筋は広葉樹とヒノキ、スギとの混交林となっている。一抱えを超えるヒノキの巨木も生えている。細くても、伐ってみればこの杉のように実に細かい年輪を見せている。安藤さんは、その大部分が天然物ではないかという。細くて年輪のつんだ木は、多くの場合ねじまがったり上部が2本に分かれたりしている。とても柱材としては使えそうもない。しかし、細工物に使うのだったら良材ということになる。間伐方針を見直したほうがいいかもしれない。

結局この日は、合計9本。もうひとつの小西・早川・市村班も9本。総計で18本の間伐であった。

帰路、安藤さん、市村さん、王クンが乗って5人満載で19号線をたどった。話題はもっぱらモンゴルのこと。中国では、学者になろうと思ったら人間関係(コネクション)を日本以上に大事にしないといけないという話が印象的だった。(糸土広)



写真はすべて水源の森です

会員からのメッセージ(2007.5-7)

会費の振込用紙から

名東区 山口さん：ニュース No.17 楽しく拝見しました。具体的な活動の様子がよくわかりました。森を体験することが、森の重要性を考える最高の機会になるのでしょうか。

名東区 佐尾さん：ニュースありがとうございました。怪我と加齢で間伐・枝打ちが出来ないのが残念です。皆様の活動を読み、すがすがしい気分を味わいました。暗いことが起っている昨今、元気を頂きました。

名東区 伊沢さん：地に足が着いた活動を続けて下さっている皆様に感謝申し上げます。虫袋が食べられるなんて初めて知りました。うちの庭の植木は、なるべく鳥の食べられる実がなるかどうかで植えてきました。または、蜜があるかどうかで……。人間の食べられるものも沢山生えています。タンポポ、オオバコ、ホトギス、ホタルブクロ、ナバナ、ハハコグサ、カラスのエンドウ、ヨモギ、カンゾウ、ギボシ、スマレ、十薬、ユキノシタ、セリ、青ジソ他、まあ、半分小さな野原みたいなものです。

天白区 水谷さん：木曽の清流と森林保全はいつまでも大切なこと、みたけ町民、町政も支えていきたいものです。平和憲法も変更があってはいけない、日本の誇り、世界の誇り。



11月3日に作った木工細工。童心に返って一日楽しく遊びました。

表紙の絵は早川しょうこ作

発行

特定非営利活動法人NPO みたけ・500万人の木曽川水トラスト
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付
TEL & FAX 052-682-4737
郵便振替00800-9-64810
URL <http://homepage3.nifty.com/mitake/>
e-mail mitake500np@yahoo.co.jp